

(別紙)

平成25年度 産業廃棄物税基金充当事業 実績報告書

事業名:解体木造建築物の構造材再利用促進の基礎的研究事業(古川工)

事業実施予定期間:平成20年度から平成26年度

担当課室名:高校教育課

担当班名 キャリア教育班 TEL: 3625

e-mail ko-kogyo@pref.miyagi.jp

1 事業の目的

産業廃棄物の再利用・有効利用を含めた、循環型社会に貢献できる技術者・技能者を育成する。また、廃棄物の発生抑制や、リサイクル産業の振興並びに循環型社会について、専門高校生として取り組むことのできる実践や基礎的研究を各関係団体からの支援を受け行う。

2 当該年度の実施事業の概要

解体予定の木造建築物の部材を採取し、再利用可能な材料としての補強方法を研究しながら規格材に加工し、木工機械を活用した製作型研究を行った。特に、東日本大震災を経験した生徒の考えを反映させ避難所などで活用できる物品及び地域保育園で活用できる物品の製作を行った。

○避難所内での活用を考えた簡易間仕切り(コンビネーションパネル)の製作(16組)

○廃材を利用した家具等の製作(大型ラック1台、教室用物品収容棚)

○廃材を利用した校地内倉庫の修理・補修

○廃材を利用した保育園児用木製椅子及び木製玩具の製作と提供(5脚・1個、ほなみの杜保育園)

○製作段階で排出されるカンナくずの利用(宮城県農業高校へ家畜の敷料として提供、10袋)

事業取り組みに際して、宮城県解体工事業組合、大工、木工建具職人や設計士と連携し、専門的知識の学習と作業体験及び技術・技能指導を受けた。(全43回)

産業廃棄物の処理状況等現場見学と、専門講師の指導による設計・製作工程を通じた実践的学習で、地球環境に配慮した今後の産業活動に寄与できる人材の育成に努めた。(全7回)

3 当該年度の実施事業の成果

○災害発生時に避難所等で活用できる簡易間仕切りや木工家具等の製作をとおり、廃材(再生利用可能な木材)のリユース推進を図った。

○現場見学と専門的講師からの指導による実践的学習を通し、地球環境に配慮した今後の産業活動に関与できる人材の育成を図った。

○地域の建設廃棄物処理企業、大工、木工職人や設計士との連携・協力体制を構築した。

4 今後の展開

○これまでに構築した地域の各種団体や企業との連携・協力体制により、解体材料の提供や各種現場見学・実習場所等の提供を受けるなど、地域と連携した継続的な人材育成を推進する。

○ものづくりの技術や技能をとおして、地域防災に取り組む諸団体(町内会など)や教育機関(幼稚園や保育園など)からの要望に応える木工製品づくりに取り組み、産業廃棄物の抑制に寄与する人材育成を推進する。

5 廃棄物の削減・リサイクル、適正処理の促進の効果等を示す指標の数値

(指標:関連授業時数)

単位:時間

平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
99	268	340	245	震災により 延期	249	250

6 事業費の推移

単位:千円

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
7,310	3,096	3,011	震災により 延期	2,851	2,955	2,912